



障害物を避けながら人を誘導する盲導犬「エネザ」

盲導犬とふれあい仕事を学ぶ**■盲導犬とのふれあい体験**

坂部保育園で10月28日、保護者会が主体で企画した、盲導犬とのふれあい体験が行われました。

公益財団法人日本盲導犬協会職員の池田義教さん、押野まゆさん、保護者会の役員でもある浜谷智子さん、盲導犬の「エネザ」と「バロン」が園を訪れ、園児たちに盲導犬の仕事や役割について説明をしながら実演しました。

園児たちは、「障害物を避ける」「段差のある場所を知らせる」など、目の見えない人を安全に目的地へ導く盲導犬の大切な役割を学びました。

本をたくさん読んでください**■読書週間に向けて学校図書を寄贈**

10月22日、「読書週間」を前に、さがら子生れ温泉会館が勝間田小学校に本を寄贈しました。

この寄贈は、牧之原市の未来を担う子どもたちに本をたくさん読んでもらおうと、平成29年から毎年行っているもので、今回の勝間田小学校で4校目になります。子生れ温泉会館の代表企業である株式会社高柳製茶の高柳敬将社長が学校を訪れ、図書委員の児童に本を手渡しました。

本を受け取った児童は「大切に使います。ありがとうございます」と感謝しました。



高柳社長(右)から本を受け取った児童と櫻井真弓校長(左)

プログラミングの楽しさを体験**■プログラミング教室**

細江小学校で10月30日、株マキノハラボから講師を招き、6年生を対象にプログラミング教室が開催されました。

児童はまず、教室でプログラミングによる葉の開発や効果的な物流などの事例を学びました。その後体育館で、タブレット端末のアプリに角度や距離などの数値を入力して実際にドローンの操作に挑戦。与えられた課題をクリアするため班ごとに話し合って試行錯誤し、楽しみながらプログラミングを学びました。



ドローンが入力した数値通りに飛んで喜ぶ児童

大きく育ったお芋を収穫**■サツマイモ掘り体験**

萩間小学校の1年生30人が10月27日、学校の敷地にある畑で、サツマイモ掘りを体験しました。

このサツマイモは、児童らが6月に苗を植え、水まきや害虫駆除などをを行いながら大切に育ててきたものです。児童は、地域のボランティア団体ヨコグラの会(大石通之代表)のメンバーから掘り方を丁寧に教えてもらいながら、大きく育ったサツマイモを次々と収穫していました。

サツマイモ掘りを体験した児童は「たくさんとれて楽しい」と話してくれました。



土を掘り起こしてサツマイモを収穫する児童

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0542-0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



本多家三代や小島蕉園の歴史や功績について学ぶ来場者

まきのはらを築いた偉人を学ぶ**■市史料館企画展「まきのはらを築いた人々」**

10月3日から令和3年2月28日まで、市史料館企画展として、郷土の偉人展「まきのはらを築いた人々—貴殿たちを忘れないー」が開催されています。

10月3日から11月1日までの第1期には、田沼意次侯より前に相良藩主を務めた「本多家三代」と、意次侯の後に牧之原市を治めた名代官「小島蕉園」にまつわるさまざまな資料や写真などを展示。市内外から訪れた来場者は、その功績や歴史などを学びました。この企画展は、約1ヶ月ごとに展示内容が変わる予定で、「相良城の御城印」を購入すれば、期間中は「入城券」として何度でも使用できます。

原子力災害からの避難に備えて**■中部電力が市と福祉施設に福祉車両を配備**

10月19日、中部電力(株)から福祉車両2台が配備されました。2台のうち1台は市役所に配備され、もう1台は、市から特別養護老人ホーム「聖ルカホーム」に再貸与されます。

これは、平成31年3月に本市と御前崎市、中部電力が締結した協定に基づくもので、浜岡原発で原子力災害が発生した際、避難に介助を必要とする人を放射線防護施設まで運ぶことを目的としています。本年から令和4年までの3年間で、各年度6台程度の配備を予定しています。



今回配備された2台の福祉車両と関係者ら

**牧之原市と田沼意次侯をPRします****■相良中学校美術部が缶バッジデザインを作成**

相良中学校美術部の生徒29人が、市や田沼意次侯をPRする缶バッジのデザインを作成し、10月16日、市の観光PRのノベルティや田沼意次侯銅像募金の返礼品に採用する6種のデザインがお披露目されました。

「田沼意次」の文字を大きくデザインしたアルトウナ アイノアさん(3年)は「まずは意次侯の名前を覚えてもらいたいと思い、顔やシリエットではなく名前を入れた。海を表現した部分の青と白のバランスが難しかった」と話しました。